

環境学習みえ

2022年6月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年4回発行
表紙の人／「白塚の浜を愛する会」のみなさん 2022 No.89

夏

「白塚の浜を 未来へ受け継ぐために」



「白塚の浜を 未来へ受け継ぐために」

2030年までのSDGs達成に向けて『行動の10年』がスタートしています。

三重県環境学習情報センターでは、SDGs達成に向けて環境問題を解決するための環境学習、ESDの普及や情報発信を行っています。令和4年度の「環境学習みえ」では、三重のさまざまな取組をSDGsと関連づけながら取り上げていきます。

今回は津市の白塚の浜を未来に受け継ぐため、砂浜の素晴らしさを伝え続ける「白塚の浜を愛する会」の活動をご紹介します。



監修 一般社団法人 SDGs コミュニティ代表理事 新海洋子氏

持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細

1 貧困をなくそう 目標1【貧困】 あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる	2 飢餓をゼロに 目標2【飢餓】 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3 健康と福祉をすすめる 目標3【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	4 質の高い教育をみんなに 目標4【教育】 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
5 ジェンダー平等を實現する 目標5【ジェンダー】 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う	6 安全な水と衛生をみんなに 目標6【水・衛生】 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7 持続可能なエネルギーをみんなに 目標7【エネルギー】 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な次世代エネルギーへのアクセスを確保する	8 働きがいも経済成長も 目標8【経済成長と雇用】 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
9 産業と雇用革新を加速させる 目標9【インフラ、産業化、イノベーション】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	10 人や国の不平等をなくす 目標10【不平等】 国内及び各国間間の不平等を是正する
11 持続可能な都市を創る 目標11【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	12 持続可能な消費と生産 目標12【持続可能な消費と生産】 持続可能な消費生産形態を確保する
13 気候変動に具体的な対策を 目標13【気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	14 海の豊かさを守ろう 目標14【海洋資源】 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15 陸の豊かさを守る 目標15【陸上資源】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対応ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	16 平和と公正をすすめる 目標16【平和】 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17 パートナーシップで目標を達成しよう 目標17【実施手段】 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	

出典：パンフレット「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」(外務省)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、Sustainable Development Goalsの略称で、「持続可能な開発目標」と訳されます。人々の暮らしや社会の豊かさを追求しながら地球環境を守るため、2030年までに達成をめざす世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。17のゴール(めざす姿)とゴールを達成するための169のターゲット(具体的な達成基準)から構成されています。

2030年までを「行動の10年」に

2021年の報告によると、世界各国のSDGs達成状況には偏りや遅れがあり、国連は危機感を感じています。「誰一人取り残さない」世界を実現するために、2030年までを「行動の10年」として、取組を拡大・加速しなければいけないと、世界に呼びかけています。

グローバル化が進んだ現代、国境を超えて影響を及ぼす共通の課題に世界が団結して取り組まなければなりません。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックがSDGsの取組にも多大な影響を与えていますが、「行動の10年」に突入した今、私たちひとり一人にできることをしっかりと考え行動していくことが必要です。

パンフレット「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」(外務省)を引用して編集

国際連合広報センター

Web 国連広報センター 2030 アジェンダ で 検索

外務省 JAPAN SDGs Action Platform

Web 外務省 SDGs で 検索

もっと知りたい人はこちら

「2030年のあるべき姿」にむけて 「白塚の浜を愛する会」の活動は、どの目標につながっている?

海洋プラスチック問題を解決する



希少な生物が生息する砂浜の生態系を守る



砂浜の価値を伝え、残していく
(水質の浄化・防災機能・自然環境の恩恵など)



リサイクルできるものは資源として分別する



今回、取材したのは!

白塚の浜を愛する会

白塚海岸
(津市白塚町)



代表
にし ぐち けい こ
西口 恵子さん



西口さんにとって「白塚の浜」とは?

「白塚の浜に来ると元気になるし、のんびりできる。大好きな場所です」。白塚町の隣町で育った西口さん。子どもの頃には白塚の浜に来て遊んだり、大人になってからは子どもと一緒に遊んだり、まさに「遊び場」だったそうです。

お問い合わせ

WEB: 白塚の浜を愛する会 で 検索 <https://siratukahama.jimdofree.com/>
MAIL: siratukanohama2@yahoo.co.jp TEL: 090-7605-2102 (代表: 西口)

伊勢湾で一番広くて 豊かな自然環境が残る砂浜

白塚海岸は長さ約800メートル、波打ち際から堤防まで約140メートルある砂浜海岸です。伊勢湾の沿岸域で、これほど奥行きのある砂浜は他にありません。シロチドリの産卵や海浜植物が見られる貴重な場所です。

以前、白塚海岸には、大部分の砂浜が消失してしまう浄化センターの建設計画がありました。「水を浄化する施設をつくるために、浜の自然を壊すなんて」と当時、疑問に感じたという西口さんは、1995年、「白塚の浜を愛する会」を結成しました。後に県や市が計画を見直し、砂浜を全て残すことになりましたが、西口さんは今も仲間と活動を続けています。活動は27年にわたり、会が毎月主催している海岸清掃には、たくさんの方が集まります。

今回は、白塚の浜の魅力を紹介するとともに、今、砂浜で起きている課題について取り上げます。

白塚の浜を愛する会 主催 ごみ拾い・除草作業の 参加者募集！

毎月第3日曜日 9:00～12:00



参加希望の方は、
できれば事前に
LINEやメールで
ご連絡ください！

おひとり様OK！
団体・企業の参加もお待ちしております！



清掃活動のあとは
おいしいお弁当！

海岸にはどんなごみがあるの？ 街のごみが川から海へ流れ込む

白塚の浜には台風などで大波がくると、ペットボトルなどの容器包装プラスチックごみや流木が漂着します。会の定期的なごみ拾いによりきれいにされていますが、拾いきれない小さいマイクロプラスチックがたくさんあります。



マイクロプラスチックって？

5ミリメートル以下のプラスチックで大きく分けて2種類あります。一つは、一次マイクロプラスチック。歯磨き粉や洗剤などに使用される小さなプラスチックです。もう一つは二次マイクロプラスチックで、プラスチックごみが川から海へと流れていく間に、波の力や紫外線による劣化で細かく砕かれた微細なプラスチック片です。

白塚海岸で見つけたマイクロプラスチック

稲作で使う肥料の空き殻(右)もマイクロプラスチックです。



海洋ごみの現状を伝える 「マイクロプラスチックでアート」

海岸で拾い集めるのが大変な小さなマイクロプラスチック。どうしたらたくさんの人に拾ってもらえるのだろうか？と浮かんだアイデアが、カラフルなマイクロプラスチックを絵画の材料にしたアート作品づくりでした。色鮮やかな作品は各地で展示し、たくさんの人に海洋ごみの現状を伝えていきます。

桜



カワラハシヨウ



子どもたちに浜の環境を伝える！ 出前講座ご相談ください！

「マイクロプラスチックでアート」体験などの出前講座をしています。津市以外への出張も可能です。詳しくはお問い合わせください！

夏休み子ども環境講座
「白塚海岸散策とマイクロプラスチックでストラップ作り」開催！
8P「講座情報」をご覧ください。

世界中で深刻な海洋プラスチック問題

※参考:「海洋ごみをめぐる最近の動向」平成30年9月(環境省)

2050年までに海中プラスチックの重量は魚の重量を超えると予測されています。※

生物が海洋プラスチックを餌と間違えて誤飲したり、体に絡み付いたりして死亡するケースもあります。生態系を含めた海洋環境への影響のほか、観光や漁業への影響、海岸の漂着ごみによる沿岸域の居住環境への影響などがあります。

私たちは海洋プラスチック問題にどう向き合っていけばよいのでしょうか。

※出典: The New Plastics Economy: Rethinking the future of plastics(2016.Jan. World Economic Forum)

持続可能な開発目標(SDGs)



持続可能な開発目標(SDGs)のターゲットの1つとして「2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する」が掲げられています。

世界ではどんな取組をしているの？

2019年6月に開催されたG20大阪サミットで、日本は2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案し、首脳間で共有されました。他国や国際機関等にもビジョンの共有を呼びかけ、2021年5月現在、87の国と地域が共有しています。

※引用: Web「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」(環境省)

個人にできることって？

ごみをポイ捨てしない、屋外でごみを放置しない



海岸沿いのごみを拾う



使い捨てのプラスチック製品をなるべく使わない
マイバッグ、マイボトル、マイ箸などを使う



リサイクルできるものは資源として分別する



ハマヒルガオ再生プロジェクト

5月、浜面にハマヒルガオの淡いピンクの可愛らしい花が咲きます。堤防改修工事によるハマヒルガオの生息環境への影響を考え、去年初めて、一時的に一部のハマヒルガオを別の場所へ移植しました。そして、工事終了後に元へ戻します。



「ハマヒルガオ」ヒルガオ科のつる性多年草。海岸の砂地に生える代表的な海滨植物。



去年秋のハマヒルガオの移植のようす。今年5月には移植した場所に根づいて新しい葉を出しました。

「ハマヒルガオ再生プロジェクト」には、

たくさんの人に砂浜の環境変化に気づいてほしい、という思いが込められています。ハマヒルガオを増やすためには砂浜の環境を維持していくことが重要であり、それは砂浜でしか生きられない他の生物の生息環境を守ることもつながります。



「チガヤ」イネ科の多年草。群や空き地に生える植物。地下茎で広がるため、除草は大変な作業です。

西口さんは、「堤防改修以前の浜の砂は、白くてサラサラだったのに、今は砂に小石や色々なものが混ざっている」といいます。本来砂浜には生息していなかったチガヤ（イネ科）や、外来植物のオオタバムグラ（アカネ科）も目立つようになりしました。この状況を今、西口さんはとても心配しています。これらの植物は海滨植物の生育に影響が出るため除草が必要です。

砂浜の自然環境は変わっていくものです。しかし放っておくと、ごみがあふれ、外来植物が増えていきます。良い状態の砂浜を維持するためには、人が保全していかなければならないのです。

一方で、堤防は防災面で人の命を守るために必要です。人と自然、どちらの価値も守るという共存のあり方を探らないといけません。西口さんは、人にも自然にもよい浜であるために、できるだけ環境に配慮した工事を進められるよう行政と対話し、提案をしています。

自然豊かな砂浜を未来に残したい

白塚の浜はたくさんの方のことを私たちに教えてくれました。

浜の漂着ごみや流木は、地域の人や会が

希少な生物が見られる白塚の浜

参考:「三重県レッドデータブック2015」(三重県)
Web「三重県指定希少野生動植物種」(三重県)

シロチドリ

チドリ目チドリ科
県絶滅危惧IA類(繁殖)
県準絶滅危惧(越冬)
三重県指定希少野生動植物種

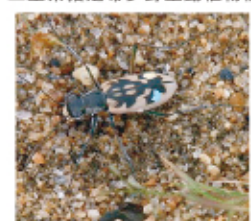


三重県の鳥。全長17cm程度の小型のチドリ。繁殖地は主に内湾に面した海岸の砂地で、春から夏にかけて産卵します。

撮影:「魚と子どものネットワーク」新玉堂斗

カワラハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科
県絶滅危惧IA類
三重県指定希少野生動植物種



体長14~17mm。海岸、河原などの砂浜に生息。成虫は7月下旬から10月上旬にかけて出現。幼虫は草本がごくまばらに生えた砂地にほぼ垂直の巣穴を掘り、その中で過ごします。

ヤマトマダラバッタ

バッタ目バッタ科
県準絶滅危惧



体長30~35mm。中型のバッタ。成虫は7~10月に出現。海岸、大河川の砂地に生息し、全国的にも生息地は限定されます。

行う清掃によって処理され、昔から地域の人や浜に思いのある人が自然環境を保つてきました。「だからこそ砂浜の希少な生物が守られてきたのでしょう」と西口さんは話します。

白塚の浜には「ごみ拾いをしたい」とボランティアになる人が増えてきました。「浜はごみ拾いや除草をするだけの場所ではありません。これからいろんな人と浜の保全と利用について考えたい」と、ごみ拾いや除草作業に加えて、誰もが白塚の浜で楽しく過ごせる企画、遊びイベントを考えています。浜での遊び、地場の食べもの、海と山のつながり、など白塚の浜でいろいろな人が出会う、浜のファンを増やしていきます。

「浜と暮らし、自分とのつながりが見えにくくなった今、実際の浜を見て、浜に触れることで、若い世代には若い世代の、家族には家族の、子どもには子どもの、それぞれの活動や楽しみを見つけてほしい」、それが西口さんの願いです。

西口さんの白塚の浜への思いと、次々に溢れ出るアイデアが、これからも浜と人をつないでいくでしょう。浜の豊かさや多様性に触れて、浜の魅力や大切さに気づいた人はその価値を伝え、未来につなげていきます。浜での活動が人と自然、人と人のつながりを強くし、未来が描かれていくのです。

白塚の浜と、浜で活動している人たちからのSDGメッセージです。